

# 大学法人における競争優位性の創造

## 【目次】

### 序章

- 第1節 はじめに
- 第2節 問題意識
- 第3節 構成

### 第 章 大学と社会

- 第1節 大学の歴史
- 第2節 大学の現状
- 第3節 日本経済と雇用環境の変化
- 第4節 10代を取り巻く環境とニート問題

### 第 章 労働・教育・人材

- 第1節 労働環境の変化
- 第2節 高校、企業の視点と求人
- 第3節 企業教育と大学教育

### 第 章 競争優位性と現場

- 第1節 大学の問題点
- 第2節 問題改善とその方法
- 第3節 現在の手法

### 第 章 モチベーションとコミュニケーション

- 第1節 モチベーション
- 第2節 コーチング
- 第3節 エンパワーコミュニケーション

### 終章

- 第1節 結論
- 第2節 今後の課題
- 参考文献

## 【目的】

現在大学は「学問の府」から「レジャーランド」へと変貌を遂げてきている。大学数は、平成17年度には726校を超え、各大学とも学生の確保、ステイタスの向上を目指し、新学科設立や独自の方針などを打ち出すなど、日々葛藤をしている。しかし、現場では3T（退屈、つまらない、手持ちぶたさ）等と言われる講義が日々行われている。大学という高等教育の組織において、なぜこのような問題点が存在するのか、問題の本質とその解決手法を示し、大学の競争優位性の創造を行う。

## 【方法】

大学の問題点を明確にし、社会（企業）の求める人材像の育成という観点から考察する。また、モチベーション、コーチング、メンタリングを用い、学生の牽引と競争優位性の創造の手法について考察する。

## 【結果】

大学講義の問題背景には、学生の学習意欲の欠如や、大学組織の昇進制度にある事が分かった。また高度経済成長や中流意識、ハイ・コンテクストな社会が今の大学全入時代を産み、マスプロ講義を主流にさせた事も分かった。そこで本論文では、社会適応の高い学生の創造と言う出口管理に徹した教育手法や、徳育を重視した教育手法を提案した。

## 【参考文献】

- 佐藤進 『大学の生き残り戦略 - 少子化社会と大学改革 - 』 社会評論社、2001年発行。
- 古谷浩 『大学教授は廃業家か - 学園のいびつな素顔 - 』 早稲田出版、2003年発行。
- 野田一夫 鶴川昇 『大学の崩壊 - この危機を救う道はあるか! 』 IN通信社、2000年発行。
- 松井賚夫 『モチベーション』 ダイヤモンド社、1982年発行。